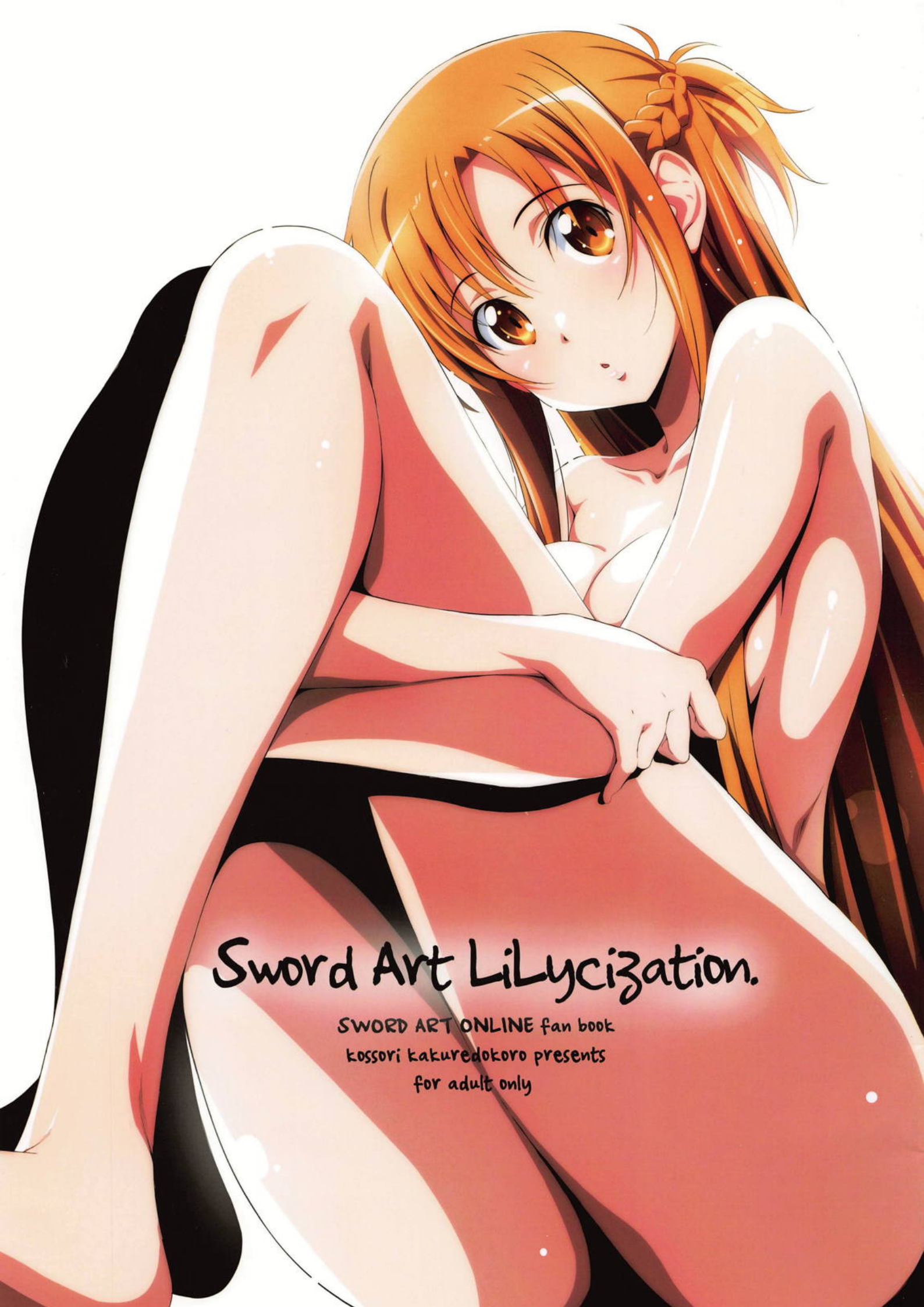
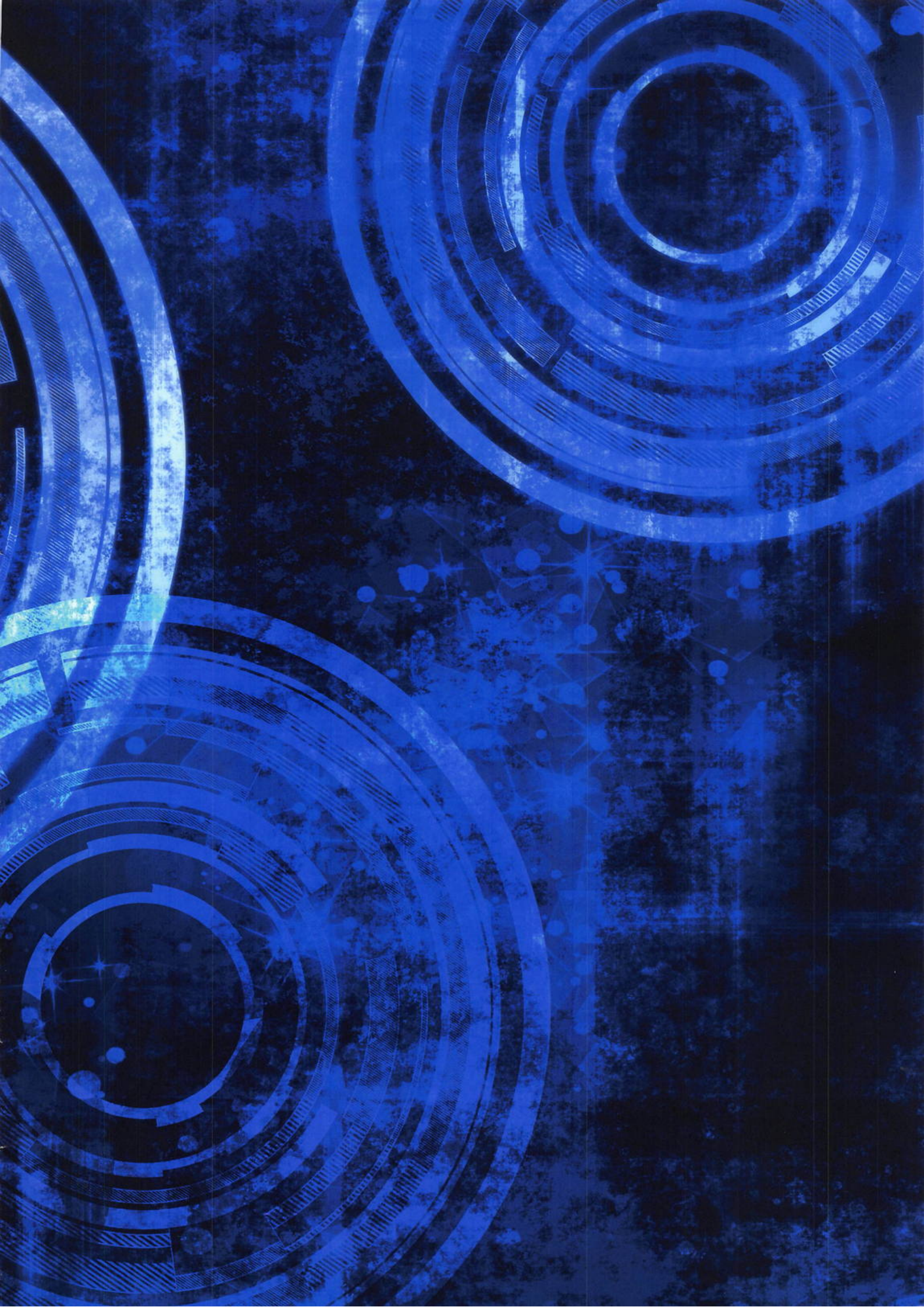
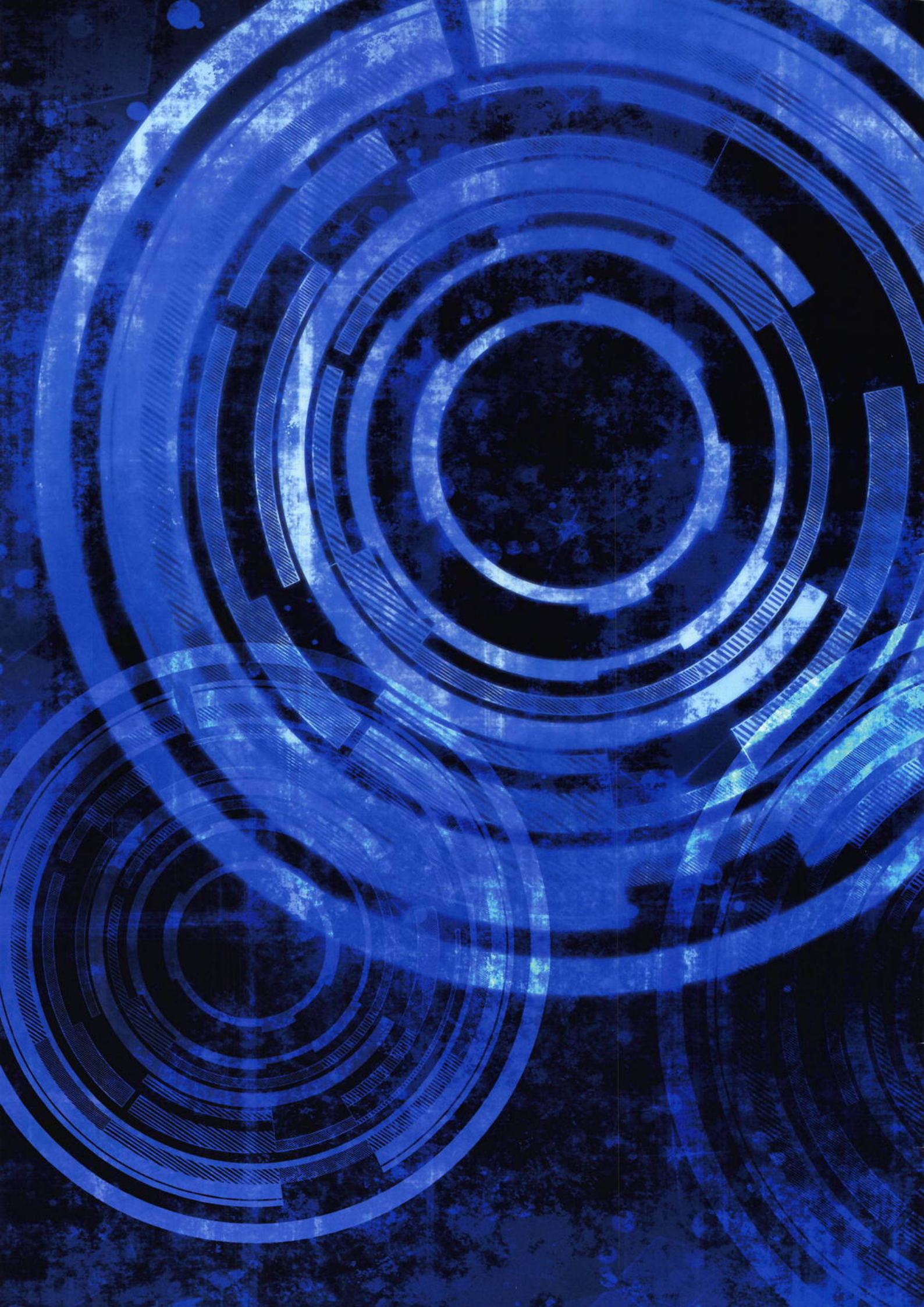

Sword Art LiLycization.
SWORD ART ONLINE fan book
kossori kakuredokoro presents
for adult only





Sword Art LiLycization.

「い…いいねぇ♥」

「…ッ!!」

「やっぱりNPCの女じゃその表情は出来ないよねぇ♥」

「…わたし…はっ」

「こんな事で傷つけられたりしない…っ!!」

「君がどこまでその誇りを保つことが出来るのか…」

「ハハ…ハハハッ そうこなくちゃね♥」

「く…うう…っ」

「何時間？何分？何秒かな……？♥♥」

「……っ!!」

「じつに楽しみだよ♥」

「ふ…んぐっ!」

「ティターニア…いやアスナくん♥」

「さぁ…」

「パーティーといこうか…♥」

「ひ…っ!!」
「…どうかな?」
「アスナくんが知ってる現実でのサイズよりも大きいだろう……?」
「この2年間、日々成長する君のおっぱいを正確に計測するために専用の機器を定期的に病室に持ち込んでいたんだ…♥」
「…ああでも僕としたことが大切な事をすっかり忘れていたよ…♥」
「システムに今すぐ母乳が出る機能を搭載しないとね♥」
「まあすぐにゲームの中じゃなくて……」
「い…や…っ」
「現実世界のほうでアスナくんのお乳を楽しめるようにしてあげるけどね……♥♥」
「嫌…あああぁ……っ」

「まずは手始めにこの仮想世界でたっぷり愉しもうじゃないか♥」
「くっ…何を……っ!?」
「性感アブソーバーをレベル10から5に変更♥」
「な…っ、やぁっ!」
「現実世界では到底味わえない快楽だ♥」
「ひ…あ……」
「存分に愉しんでくれたまえ♥」
ビクッ♥
ビクッ♥
ビクッ♥
あっ…!?
あっ♥
あっ♥
あっ♥

あっ
ぷるん♪
あっ
じゅぷぷ♪
あっ
じゅぷぷ♪
あっ
ビクッ♪
ビクッ♪
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
ひん♪
ひん♪
あっ
あっ

「我慢しようとしても無駄無駄無駄無駄♥」
「脳に直接快感信号を送り込んでいるんだ」
「んんっ!!」
「キミがどんなに気高い剣士をであっても じきにただの雌犬に成り下がる…♥」
「楽しみだよ…♥」
「その時アスナくんはどんな声を聞かせてくれるんだろうねぇ?♥」
「さあいよいよフィニッシュタイムだ!!」
「子宮に直接僕のエクスキャリバーをジェネレート!!♥」
「快感レベルをゼロに変更!!♥」
あっ
ぷるん
ビクッ
ビクッ
ビクッ

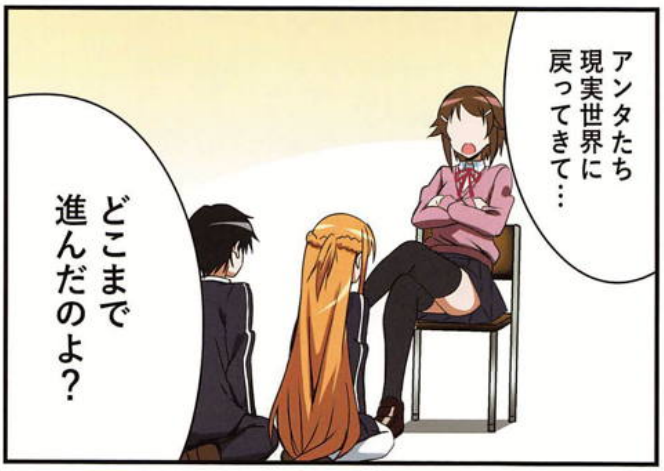
「ゴメン…ね
キリト……くんっ」
は…
あっ♥
「もう…駄目…え♥♥」
ぴゅる♥
ぴゅるる♥
「許して…あっ♥」
ん♥

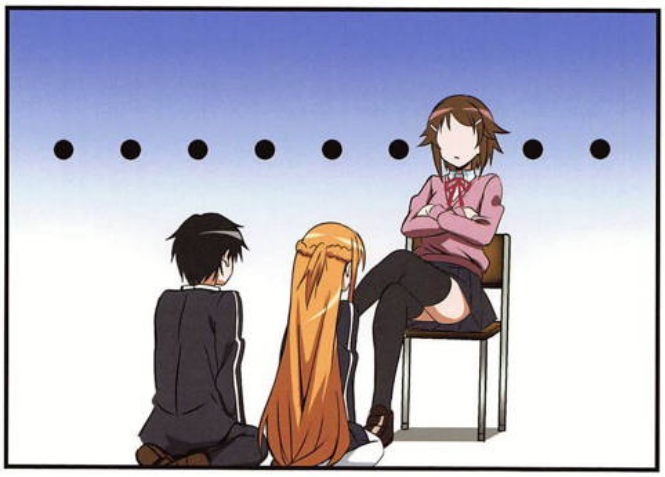
「ゴメン…ねキリト……くんっ」
「もう…駄目…え♥♥」
「許して…あっ♥」
「あっ…あああああああ♥♥」
「イ…ぐうううっっ♥♥♥」
あっ♥
びゃる♥
ぴゃる♥
ビクッ
ビクッ
あっ♥

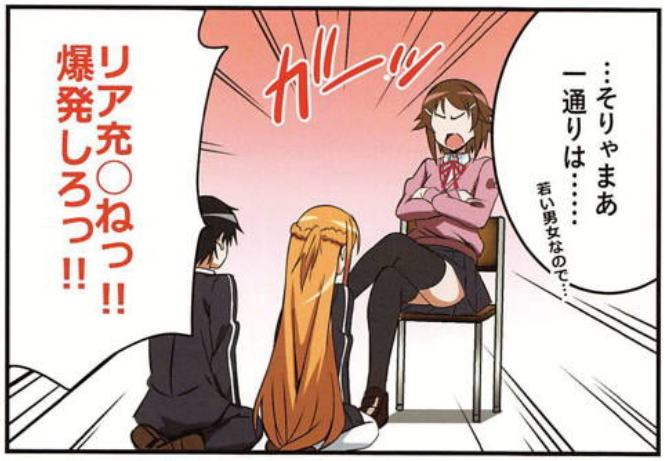
「あっ…あああああ♥♥」
ビクッ
イクッ♥
ビクッ
イクッ♥
「イ…ぐううううう♥♥♥」
あっ♥

ぶっちゃけリズベット

で…
実際のところ…


アンタたち現実世界に戻ってきて…
どこまで進んだのよ？


●●●●●●●●


…そりゃまあ一通りは……
若い男女なので…
ガーン
リア充○ねっ!!
爆発しろっ!!

だって…好きなんだもん

一何がどうなっているのかわからなかった。

想像もしていなかった様々な事態に翻弄され、死の恐怖にまで晒されながらも過去のトラウマを克服し、真の意味で自分を救ってくれた少し怪しくも、最高のパートナーとさえ思った相棒とBoBを戦い抜き、ずっと念願だった勝利を掴み取ったのはほんの数分前のことだ。

しかし今の朝田詩乃にとって、シノンとして戦い抜いたあの掛け替えのない時間はずっと遠い過去の出来事のようで、まるで現実感がない。あれほど濃密に感じた時間すら吹き飛ばすほどのリアルに直面した今、すべてのことは儚い幻のように思えた。

「朝田さん…っ、朝田さんっ！シノンっ！！」

自分のことを呼んでいるその声を詩乃はまったく理解することが出来ない。それはまるで意味不明な言語を捲したてられているかのような感覚であり、脳が一切の理解を拒否しているのだという事を辛うじて理解するのが精一杯だ。

しかし自分の中心、その奥深くまで貫いてるそれまで体験したことのない感覚が現実だということは、貫かれる都度に容赦なく奔る激痛が嫌というほど詩乃の奥深いところまで刻んでくる。長い間親しい、本当に数少ない友人と思っていた男の子が、自分自身でさえ触れようのない、躰の本当に奥深いところを侵食してくる。

何がどうなっているのかわからなかった。

それでも麻痺していた脳が状況に少しづつ、ようやく適応してきてくれたおかげで詩乃は遂に現在の状況を正しく認識することが出来た。

（あぁ、そうか。私、新川くんに犯されてるんだ）

次の瞬間、それまで１度として経験したことのない嫌悪感が詩乃の全身貫いた。先程から定期的に聞こえてくる声は自分が発しているものであり、視界が霞んで見えるのは自分が涙を溢れさせているからだとようやく理解が至る。

「…新川く…んっ、こんなこと駄目…ぇっ！お医者さまになるんでしょ？　まだ…やり直せるよ…っ！！」

必死に絞り出した声も快楽に夢中になっている彼には少しも届かない。そしてその快楽を与えているのが自身の躰だと理解した時、耐えようのないもう一つの衝撃に気づく。

（あ…わたし…濡れてるんだ）

それを知ってしまった後はもうどうしようもなかった。

嫌悪感を容赦なく塗り潰す悦楽。薄れゆく意識の中で熱い律動を儚く詩乃は受け止めた。

「ねえ、お兄ちゃん。入っても…いい？」

夕食が終わり夜も更けた頃を見計らって直葉は兄の部屋のドアをノックする。
両親が仕事で不在がちなので今日も家には兄と自分しかいない。こういった夜に兄の部屋を訪れるようになってまだ日が浅い直葉は、夕食の時間から逸る心が思わず表情に出てしまっていないかいつもドギマギしてしまう。

なるべくいつも通りを心がけ、妹としての自分を必死に振る舞う自分を思ってか、兄もまたその時間が訪れるまでは仲のいい兄妹として過ごしてくれる。
そうした時間を過ごして、既に身体の中心に帯び始めている熱を入浴することで必死に洗い流し、念入りに準備を整えてからようやく兄の部屋の前に立つ。その頃には努力の甲斐なくより熱い熱を帯びてしまうのが直葉の躰なのだが、期待に震える心はやはり止めることは出来なかった。

扉を開けると既に照明は落とされいた。兄もまたこの時間を心待ちにしてくれているのではないかと思うと心が熱くなる。
既に下着は身に着けていない。身に纏うのは色気の少ないジャージのみ。耳まで火照る顔を伏せてしばらく立ち尽くしていると兄はいつものように優しく寝具に導いてくれた。

「――うぁッ、ス…スグ…っ」
兄の快感に堪える声を聞いて悦びが膨れ上がる。思春期を迎え、身長が伸びない割にどんどん膨らみをました胸は密かな直葉のコンプレックスだ。しかし今、その自分の躰が兄を悦ばせている。その事実に言いようのない幸福感が身を震わせる。
やがて自らの胸にすっかり包まれている兄そのものからより強い律動の予兆を感じると、直葉はそれ以上の刺激を止めた。兄が密かに漏らした物足りなさそうな感情に悪戯心が湧きかけるが、それ以上に自分自身もこれ以上お預けされるのは我慢出来そうにない。

兄を静かに押し倒し、そのままの体勢から自らの秘所に兄のモノを手にとって導く。自分でも驚くほど直葉のそこは愛液で満ち、溢れていた。

「駄目だよスグ…ちゃんと…」
「いいの…。今日は大丈夫な日だから…」

嘘だった。正直そういった知識に疎い自分はそのことの正確な調べ方など知らない。直葉のあやふやな知識では今日はむしろ危ない日だとも思う。
それでも嘘を吐いた。今日こそはとずっと心に決めていた。

「じゃあ…イくね……」

直葉は望んだもの奥底に受け止めるべく限界まで一気に腰を深く沈めた……

あとがき

こんにちは。
初めての方は初めまして。

あいらんどです。
最後まで読んで下さってありがとうございました！(*´∀｀*)

このたびはこっそり隠れ処の新刊を手に取って頂いてありがとうございました！

今回のSAO本いかがだったでしょうか？

SAOはTVシリーズの第１期の放送での第１話で一気にだだハマりした作品だったのですが、個人的に中々描く機会が無く、それでも２期もガッツリハマりながら１視聴者として楽しんで見てました。

そんな中で幸いにも昨年の初めに公式のアンソロジー本に声をかけて頂き、一般漫画ではありましたが遂に念願かなってSAOの原稿を描くことが出来て感謝感激でした。(しがない同人漫画家に声をかけてくれた角○メディアワークス編集部さまと２年越しに懲りずに再度声をかけてくれた当時編集部所属のA氏本当にありがとうございました！！　お元気ですか？　ご無沙汰してゴメンなさい！)

そして今回、劇場版から楽しみにしてきた３期の放送がついに始まったこともあって、アスナのエロ本描きたい症候群が末期を迎え、この本になりました。思えば１期の放送が２０１２年のことになるので６年越しの思いがつまった作品となり感慨もひとしおです(笑)

しかしまあ、勢いのままに６年越しに描きたかった内容を描けて作者的には満足ではあるですが、やっぱりどうせ描くなら６年前に描いときたかったなぁというのも本音のところで、読者さんに満足してもらえるかどうかドキドキな感じです(笑)

もっとアスナを描きたい気持ちもあり、３期を見てるとアリスも描きたいと思ったり、直葉やシノンもがっつり描きたいなぁと思ったりなので応援して頂けると嬉しいです！！

作品の感想などお待ちしてます！！(*´∀｀*)

ではでは～！

あいらんど

2018.12.31

奥付

Sword Art Lilycization.

発行日■2018/12/31

発行■こっそり隠れ処

印刷■サングループ

web■http://kakuredokoro.com
Mail■shimakom@hotmail.co.jp

■18歳未満の閲覧禁止
■無断複製・転売
ネットワークへのアップロード禁止

SUN GROUP
http://www.sungroup.co.jp/

あとがき

こんにちは。
初めての方は初めまして。

あいらんどです。
最後まで読んで下さってありがとうございました！(*´∀｀*)

このたびはこっそり隠れ処の新刊を手に取って頂いてありがとうございました！

今回のSAO本いかがだったでしょうか？

SAOはTVシリーズの第１期の放送での第１話で一気にだだハマりした作品だったのですが、個人的に中々描く機会が無く、それでも２期もガッツリハマりながら１視聴者として楽しんで見てました。

そんな中で幸いにも昨年の初めに公式のアンソロジー本に声をかけて頂き、一般漫画ではありましたが遂に念願かなってSAOの原稿を描くことが出来て感謝感激でした。(しがない同人漫画家に声をかけてくれた角○メディアワークス編集部さまと２年越しに懲りずに再度声をかけてくれた当時編集部所属のA氏本当にありがとうございました！！　お元気ですか？　ご無沙汰してゴメンなさい！)

そして今回、劇場版から楽しみにしてきた３期の放送がついに始まったこともあって、アスナのエロ本描きたい症候群が末期を迎え、この本になりました。思えば１期の放送が２０１２年のことになるので６年越しの思いがつまった作品となり感慨もひとしおです(笑)

しかしまあ、勢いのままに６年越しに描きたかった内容を描けて作者的には満足ではあるですが、やっぱりどうせ描くなら６年前に描いときたかったなぁというのも本音のところで、読者さんに満足してもらえるかどうかドキドキな感じです(笑)

もっとアスナを描きたい気持ちもあり、３期を見てるとアリスも描きたいと思ったり、直葉やシノンもがっつり描きたいなぁと思ったりなので応援して頂けると嬉しいです！！

作品の感想などお待ちしてます！！(*´∀｀*)

ではでは～！

2018.12.31

奥付

Sword Art Lilycization.

発行日■2018/12/31

発行■こっそり隠れ処

印刷■サングループ

web■http://kakuredokoro.com
Mail■shimakom@hotmail.co.jp

■18歳未満の閲覧禁止
■無断複製・転売
ネットワークへのアップロード禁止

SUNGROUP
http://www.sungroup.co.jp/

Sword Art LiLycization.

SWORD ART ONLINE fan book

kossori kakuredokoro presents

for adult only